

b002010 吉田区 鬼火焚き、門回り

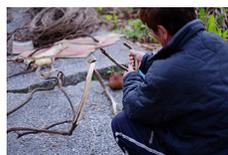
概要 適用



b002010001)



b002010002



b002010003



b002010004



b002010005



b002010006



b002010007

- ・ 日本南限の鬼火焚き。九州地方に古くからある伝統行事。特に鹿児島県は盛ん。
  - ・ 正月の7日に行われる。
  - ・ 一説では平安時代、陰陽師の儀式に原点があるともいわれている。昔に鬼の腕を焼いたときに「パーーンパーーン」と音がしたためその音が 竹の破裂音に似ていたため鬼火焚きと言われるようになった。
  - ・ 集落の悪霊を焼き払う行事。お正月に飾っていたしめ縄などを一緒に燃やす
  - ・ 無病息災、五穀豊穡を願う。
  - ・ 昔は門松がたくさん集まり、やぐらが隠れるほどだった。
  - ・ 昔は年男がやぐらに上り、その後海に飛び込んで厄よけをしていた。
- 
- ・ 吉田の鬼火焚きは伝統に忠実に行われている。
  - ・ 祀りの大岩下の浜で行われる。準備は朝の8時から11時過ぎで、10人がかりで3時間以上もかけて準備していた。
  - ・ 縄などを使わずに、「かざら」を二つに裂き、それを縄として使い、昔ながらの方法で作っている。材料集めに1日かかる。
  - ・ 鬼も段ボール製で、絵ではない。赤鬼と青鬼を作る。
  - ・ 子ども達が鬼に向かって石を投げる。
  - ・ 浜から吹き上げる風で煙が県道まで届き、その煙を浴びると1年健康でいられる。見物する住民達はこぞって、煙を浴びていた。
- 
- ・ 鬼火焚きが終わってから、集落に住む子ども達が各家を回り、門回りが始まる。年によっては、日中に行われる事もある。2015年は平日だったために、一



b002010008



b002010009



b002010010



b002010011



b002010012



b002010013



b002010014



b002010015

人でも多くの人に見てもらうため、鬼火焚きの時間を夕方に設定。

・吉田では「祝い申そう」のことを「くさえもん」と呼んでいる。

写真コメント

b002010001.JPG メイン

b002010002.JPG 平均年齢 65 歳(?)の男手で3時間。

b002010003.JPG かずらを手で半分にさいて紐を作る。

b002010004.JPG 全て自然素材。

b002010005.JPG 完成した鬼火の台。

b002010006.JPG 赤鬼と青鬼も紙に書くのではなく、しっかりと作っている。

b002010007.JPG 県道からすぐに下りた祀りの大岩したの海岸。

b002010008.JPG 火がつくと、子ども達を中心に鬼にめがけて石を投げる。

b002010009.JPG 県道から鬼火焚きを見る人たち。

b002010010.JPG 鬼火焚きの煙を浴びると無病息災。

b002010011.JPG 勢い良く燃やす。この日は風が強く灯油もかけた。

b002010012.JPG 最後は燃え尽きるまでではなく、人力で倒す。

b002010013.JPG 鬼火焚きの後、子ども達を中心に門まわり。

b002010014.JPG 二手に分かれて、忌中以外の家を回る。

b002010015.JPG 2015 年のお祝い申そうろうの台詞。